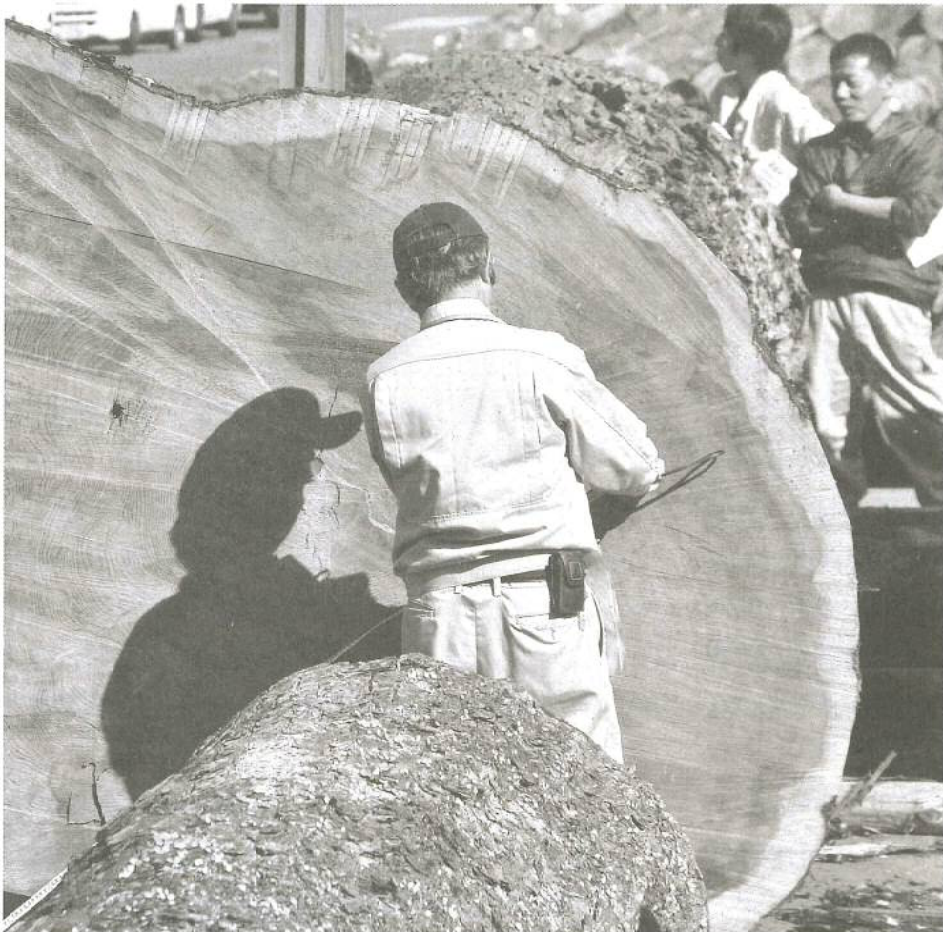
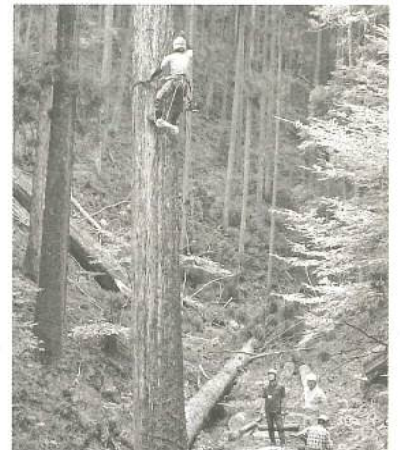


林業あいち



第16回フォトコンテスト 特選 「巨大杉、樹齢350年です」



佳作 「巨木に木登り」



佳作 「早朝の椎茸収穫」

目次

寄稿 愛知の木の良さを伝える 新城木材青壮年会 会長 和田貴嗣 …… 2

話題 「日本近代砂防の祖・諸戸北郎博士の設計による溪間工事
構造物群」の林業遺産認定
東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林
生態水分学研究所 水内佑輔、田中延亮 …… 3

話題 平成30年度学校関係緑化コンクール
東浦町立藤江小学校、豊田市立若林西小学校が愛知県
知事賞に輝く …… 4

話題 「森林教室」を開催 森林整備センター中部整備局 …… 6

話題 田口高校で「循環型林業体験出前講座」開催
愛知県立田口高等学校 教諭 宮本憲 …… 7

話題 新型タワーヤーダ技術者養成実践研修を開催 …… 8

お知らせ 林業・木材産業者のための金融制度 …… 9

お知らせ 森林・林業関係イベント情報(12月) …… 10

報告 愛知県森林協会事務局だより …… 10

市況 林産物市況(9月) …… 11

2018 11 月号
No. 764



間伐材印刷用紙を
使用しています

「日本近代砂防の祖・諸戸北郎博士の設計による 溪間工事建造物群」の林業遺産認定

東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文学研究所 水内佑輔・田中延亮

■ 林業遺産について

東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文学研究所は、1922年に愛知県演習林として設置され、現在、愛知県瀬戸市、犬山市、静岡県湖西市の1,292haの森林地域を教育・研究を主目的に管理しています。まもなく設置100年を迎えようとしていますが、この間に、近代林学(森林科学)の発展の一助となるべく、様々な調査研究を行ってきました。

(公社)日本森林学会では、日本各地の林業発展の歴史を記憶・記録していくため、林業発展の歴史を示す景観、施設、跡地、体系的な技術、特徴的な道具類、古文書等の資料群を、「林業遺産」として認定する試みが行われています。

■ 犬山研究林の林業遺産について

生態水文学研究所の犬山研究林では数々の砂防工事が行われてきましたが、このうちの1929～36年にかけて実施された先駆的なものが「日本近代砂防の祖・諸戸北郎博士の設計による溪間工事建造物群」として、「林業遺産」に認定されました。犬山市塔野地大畔にあるコンクリート放水路付土堰堤(写真)、鉄線蛇籠堰堤×17、土堰堤、橋梁×2(跡地含む)がその対象です。

なぜ、「林業遺産」としての価値があるかについて少し歴史的な事柄を振り返ってみます。1890年代には通称治水三法の制定が必要なほどに、山林荒廃や水害が多発しており、山地保全のための技術と専門家の養成は国家的課題といえる状況でした。これに応えた人物が諸戸北郎博士であり、オーストリア等への留学で得た知見を日本の国情に合

わせて理論的技術として体系化し、その普及と人材の育成に多大な貢献をしました。全国にある小規模溪流の保全までを視野に入れて砂防工学を体系化した点が諸戸の仕事として特筆されます。

犬山研究林での溪間工事は諸戸の問題意識であった小規模溪流における山地保全のためのモデル事業であったと考えられます。堰堤とは下流への土砂流出を抑制するもので、流路に対して盛土を設置し、盛土の洗堀を防ぐ放水路を石積やコンクリート、鉄線蛇籠で被覆するものです。なかでもコンクリート放水路付土堰堤は、東京帝国大学の学生実習における見学の対象であったほか、砂防技術者の教育のための農商務省荒廢地復旧技術講習会においても先駆事例として見学されており、砂防技術者養成にも貢献しました。

以上のように、犬山研究林の溪間工事建造物群は、全国の荒廢地の抑制と近代砂防工学の発展のためのモデル事業であり、かつ技術者教育に貢献したものです。

生態水文学研究所においても、「林業遺産」としてその価値を確かめ、発信するべく、見学会などを予定しています(詳しくは生態水文学研究所HPをご覧ください)。



1929年12月23日
学生実習時に見学されたコンクリート放水路付土堰堤